

かまいし「コミュニティ・スクールの推進 その1」

「学校」と「地域」がともに元気に！

釜石市では、令和4年度から、市内すべての小・中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入します。

Q なぜコミュニティ・スクールが必要なの？

A 子どもたちを取り巻く環境や、学校が抱える問題が複雑化・多様化する中、子どもたちや地域の輝く未来を創るためには、これまで以上に「社会総がかり」での対応、学校・家庭・地域による一体的な取り組みが必要だと考えられています。また、当市の「第6次総合計画」では、「地域と人のつながりの中でみんなが育つまちづくり」を掲げています。これらを実現可能にする仕組みのひとつが、コミュニティ・スクールです。

Q そもそも「コミュニティ・スクール」って何？

A コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことです。学校運営協議会とは、

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5」に基づき、学校運営に関することについて広く関係者で協議し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、学校が地域と一体となって特色ある学校づくりを進める学校の体制のことです。

Q 学校運営協議会委員はどんな人たちが構成されるの？

A 学校運営協議会は、頼もしい学校の応援団の役割を担う組織で

【委員構成の例】

- ・PTA 代表
- ・自治会会長
- ・公民館代表
- ・民生委員代表
- ・見守り隊代表
- ・学校評議員経験者
- ・図書館ボランティア代表
- ・防災関係者など

【地域にとって】

- 子どもの成長に関わる喜び
- 経験を生かすことで得る生きがい
- 地域の方々とのつながり・深まり
- 地域の防犯・防災体制等の構築など

【子どもにとって】

- 体験活動の充実・学びの広がり
- 地域の方々とのふれあいによる成長
- 達成感や自己肯定感の高まり
- 防犯・防災等の対策による安心安全な生活など

Q コミュニティ・スクールで期待される効果は？

今後、地域の皆さまに、学校や子どもたちのために力を貸していただけるよう、お願いすることがあります。

あることが期待されています。また、釜石市では、防災教育に力を入れていたため、防災関係者が委員の一員となっていたことが大きな特徴です。

【学校にとって】

- 学校運営のバックアップ
- 多様な人材・組織との協働
- 教職員の地域理解への深まり
- 地域との組織的な連携・協働体制の継続など

【保護者にとって】

- 地域で子どもが育てられていることの安心感
- 学校や地域への理解の深まり
- 地域の方々とのつながりの深まり・広がり
- PTA 活動・教育振興運動の充実など

かまいし絆会議 未来への第二步

8月5日（木）に令和3年度の『かまいし絆会議』が釜石市民ホール TETTO で開催されました。会議は、釜石中学校の白川洸太さんと杉田光さんの進行により行われました。

【参考文献】地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える「コミュニティ・スクール」のあらまし…岩手県教育委員会

昨年度から9月25日を「絆の日」とし、釜石市内の小中学生みんなが、「釜石の未来への思い」「感謝の思い」を共有していくことになっています。

「絆の日」の取組みについての話し合い

今年度は、全ての学校で同じ活動に取り組むことで、思いをひとつにすることを目指し、どんな活動を行っていくのか話し合いました。

活発な意見交換により、次の2つの活動を行っていくことになりました。

- ①「ありがとうの手紙」を歌い継ぐ取組みを各校で行う。
- ②折り鶴と共に、自分たちの思いをメッセージとして発信する。

①感謝の思いをこめて3年前に作成した「ありがとうの手紙」をどのようにこれから歌い継いでいくべきかという問題意識から、各校で取組みを大切にしていこうとい

うことになりました。

②この活動は、コロナ禍の今、自分たちができる、「地域に元気を届ける活動」として発案されました。「絆の日」に、小学校1年生から中学校3年生まで、釜石市内の児童生徒全員が同じ気持ちで取り組んでいきたいという思いで、決定したものです。



「絆の日」の活動について熱心に意見交換する様子

なお、完成したメッセージは、11月1日～11月9日にイオンタウン釜石で展示いたしました。

「各校の地域活動の成果と課題の交流」

絆会議では、昨年度から、地域

のためになる活動に学校ごとに取り組みできました。今回は、それぞれの学校の活動をよりレベルアップするために、成果と課題を紹介し合いました。他校の取組みを真剣に聞きあつたり積極的に質問を出したりするなど、学校のリーダーとしての、意識の高さが感じられる交流となりました。

「かまいし未来づくりプロジェクトとの意見交流会」

釜石高校の生徒やかまいし未来づくりプロジェクトの方々と、「釜石の未来」について意見交流を行いました。テーマは「規則正しい生活とは」「自分たちのできる地域防災」「釜石の良さを発信するために」「自分たちのできる地域活動」の4つです。

大人ができること、小中学生ができること、高校生ができることというそれぞれの立場から、意見を出し合いました。

釜石市の課題について、「自分事」としてとらえ、大人の人間たちと本気になって語り合ったことが、参加者にとっては、新たな刺激となりました。

「かまいし絆宣言」のパネルが贈呈されました

会議の際に、かまいし絆会議に對する、パネルの贈呈式が行われました。東日本大震災から10年の節目に、感謝の気持ちと、未来への決意を発信した「かまいし絆宣言」を、泉澤水産様、岩手銀行様がパネルにして寄贈してくださいました。その中の1枚は、現在、市民ホールTETTOOに展示し、利用者の皆様にご覧いただいています。



寄贈していただいた「かまいし絆宣言」のパネル

「かまいし絆宣言」

ありがとうございます

たくさんの方々の支援をしてくれた世界の方々

いつも寄り添ってくれた全国の方々

私たちの命を守り、育んでくれた地域の方々

私たちは備えます

「いつか来る」日のために郷土の明日を守るために大切な命を守るために

私たちはつなぎます

勇気をもって困難に立ち向かう強さを助け合う優しさを釜石みんなの笑顔で

私たちは今を一生懸命に生きます

今 この瞬間を大切に生きて行く新しいことに挑戦して生きて行く

命が喜ぶように 前を向いて

私たちは伝え続けます

大震災から 学んだことを未来のみんなの 笑顔のために

光輝く 未来へと

令和三年三月

こどもたちの学びを保障するために 「GIGAスクール構想」の推進

教育委員会では昨年度までに、各小中学校の全児童生徒1人1台タブレット端末整備、ネットワーク環境、その他のICT環境を整備してきました。今年度は、子どもたちがタブレット端末を利用する時に必要なIDやパスワードの設定をし、運用を開始しています。

今年10月に実施した岩手県小・中学校学習定着度状況調査の学校質問紙の結果では、「ICT機器（パソコン、タブレット端末、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネット等）を活用した授業を1クラス当たりどの程度行っていますか。」という質問項目に対して、「ほぼ毎日」と答えている割合は、県の数値よりも高く、市内小中学校の授業のICT機器の活用は進んでいる状況です。

次の写真は電子黒板に表示されている問題について、電子黒板上で線を引いたり、文字を書いたりしながら自分の考えを説明し、仲間と共有している学習活動の様子です。



ICT 機器を活用した授業の様子

電子黒板上の問題に線を引いたり、文字を書いたりしたものは、映像として保存することができます。このことから、次の生徒が説明する時には線や文字を消し、また新たに問題を表示し、すぐに説明することもできます。説明が終わった後、保存していた映像を呼び出して、比較することもできます。タブレット端末等に保存しておけば、一定期間が過ぎても、後で自分の考えや周りの人の考えを見直すこともできます。



タブレットを利用して授業に参加する生徒

右の写真は、小学校1年生の算数の授業の様子です。繰上がりのある足し算の問題と考えを自分のタブレットに書いています。左の写真は、それを教師が電子黒板に表示し、児童が自分の考えを周りの児童に説明している様子です。



タブレットと電子黒板の画面共有

電子黒板には、1人の子どもの考えだけではなく、複数の子どもの考え方も表示することができます。下の写真は、考え方を比較・検討している様子です。

このように、各小中学校ではI



複数のタブレット画面を電子黒板に表示

CT機器や児童生徒1人1台のタブレット端末を活用した授業が工夫しながら行われています。これまでに紹介した様子は活用の1つの例です。配備されている児童生徒用のタブレット端末には、このような機能の他に、ドリル学習ソフト等も入っています。また、オンラインでの調べ学習や、関連する動画や画像の閲覧など、授業のあらゆる場面に応じて必要な情報をスムーズに手に入れられるようになりました。さらに、オンラインによる他の学校の児童生徒との交流も進められています。

1人1台のタブレット端末の活用はまだまだ始まったばかりです。子どもたちの学びがさらに良いものとなるよう、教育委員会では、ICT機器の効果的な使用方法や、授業内での有効な活用方法

等を検討し、子どもたちの学びを保障してまいります。

「GIGAスクール構想とは」

「児童生徒向け1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワーク環境を一体的に整備し、多様な子どもたちを誰1人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」のことです。

学校給食を活用した食育の取組

第2次釜石市食育推進計画では、当市の重点課題でもある「肥満予防」「う歯予防」に取り組むため、「毎月3日」を「かまいしカミカミデー」と定めています。

この計画を基に、学校給食センターでは、「毎月3日」と「(末尾に)3がつく日」を中心に、噛みごたえのある食材を使用した「カミカミ献立」を取り入れています。

また学級活動等で行っている『食に関する指導』でも、栄養教諭から、よく噛むこと

の大切さやよく噛んで食べるためのポイントについて、児童生徒へ分かりやすく指導するようにしています。例えば、噛む回数を増やすことで、食べ物がお口の中でどのように変化していくのかを児童生徒に実感させるため、ご飯を用いた「カミカミ実験」を行うこともあります。意識して「噛む」という体験活動を取り入れることによって、その後の給食時間や家庭での食事においても、噛む回数を数えたり、噛みごたえのある食材を選択して食べようとしたり、児童生徒の意欲につながっていると感じています。

成長期にある児童生徒にとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすものです。児童生徒が望ましい栄養や食事のとり方を理解し、食の自己管理能力を身に付けることができるよう、今後も、学校給食を通して食育活動を推進していきます。



いかや豆類を使用した「カミカミ献立」

釜石市学校規模適正化検討委員会が開催されました

学校規模適正化検討委員会は、教育長が委嘱した学校関係者、保護者、学識経験者、子どもたちの教育や社会活動に関わる団体関係者の委員で構成され、市内小中学校の適正規模や適正配置を検討するため設置されています。

【第1回検討委員会】

令和3年3月1日（月）に第1回目の委員会が開催されました。内容は、「委員会の役割」、「当市の児童生徒数の現状と今後の推移」について事務局から説明が行

われ、今後のスケジュール、委員会の進め方について確認しました。

【第2回検討委員会】

令和3年5月31日（月）に第2回目の委員会が開催されました。内容は、「当市の児童生徒に備えたい資質と能力」について事務局から説明が行われ、釜石の子どもたちには、「どのような力が必要か」、「備えたい資質・能力は何か」を議題として、当市の児童生徒の良いところ、不足しているところ、頑張つてほしいところ等の意見を各々出し合いながら、委員の皆様

にグループで協議していただきました。

主な意見として、良いところは、素直で思いやりがあり元気な挨拶ができる子どもたちや、地域の郷土芸能や行事の中で活発に活動している子どもたちも多く、自分たちのまちが好きといった郷土愛が豊かである等の意見が挙げられました。一方で、不足しているところ、頑張つてほしいところとしては、自分の気持ちを「伝える」、「表現する」ことを苦手としている傾向があることや、自ら考え行動す

るといった主体性、創造性や探求心等が不足しているといった面が指摘されました。

【第3回検討委員会】

令和3年8月24日（火）に第3回目の委員会が開催されました。内容は、「小規模校のメリット・デメリット」、「複式学級のメリット・デメリット」について事務局から説明が行われ、続いて栗林小学校 舞良昌孝校長先生、釜石東中学校 米慎司校長先生から小規模校としての学習、生活、部活動、人間関係等といった各方面からの現状が報告され、「小規模校のメリット・デメリット」を議題として、第2回検討委員会の協議結果も参考としながら委員の皆様から意見をいただきました。

メリットとしては、子どもたちが目が行き届く学習環境で、関わりが深く家族のような学校環境となることや、地域と結び付きが強い教育環境が創出できるといった面があり、デメリットとしては、複式指導の負担、体育で種目が限られること、特に中学校では、全教科、免許を有する教科担任が揃わず、免許外での指導が行われる

こと、人間関係が限定的で子どもたちの多様性が不足する心配、切磋琢磨する機会が減少するといった意見が挙げられました。今後も地域の中での学校の役割、学校規模適正化の課題等について検討、協議を進めてまいります。

佐野茂樹さんが 教育委員に就任

佐藤 猛夫さんが、令和3年9月30日をもって、任期満了により教育委員を退任しました。

新たに、釜石市議会9月定例会において、議会の承認を得て市長が10月1日付けで、県立高等学校校長・副校長等を歴任された佐野 茂樹さんを教育委員に任命しました。任期は令和7年9月30日までです。



佐野 茂樹委員